

女性ならではの目線で、住む人に寄り添う住居を――

赤堀さんが働く建設現場は、市営大草住宅の第4期建設工事。事業を締めくくる、最後の4棟目を建設しています。市営住宅の設計・監理を一手に担う責任者としては、初めての女性です。

【ふと思いついた憧れ】

現在は、市営住宅だけではなく、市内外のさまざまな住宅や施設の建築に携わる赤堀さん。その仕事に欠かせない一級建築士の資格取得への「夢の芽」は、幼い頃の遊びの中に顔を出していました。

「小さな頃から、おままごとで間取りを考えることが好きでした。そう、空想の家作りです。でも成長とともに

にそんな気持ちはずすっかり忘れ、いつ

の間にか高校3年生になっ



自分の進路を考えあぐねていたとき、ふと子どもの頃の感覚を思い出したんです。建物のことを考えているときは、何も苦にならないし、それが好き。だから、将来は建築の

て学んだ後、18年にわたって市内道悦の石川一級建築士事務所勤務しています。

「憧れだった職業に就けたとはいえ、現実には学校で学びきれなかった法律や予算、



一級建築士
赤堀 江美さん（月坂二丁目）

仕事に就けたらいいなって」

【壁を乗り越えるすべ】

大学に進学し、住居学科を専攻した赤堀さん。そこで快適な住環境や生活空間につい

をここまで引っぱり続けてくれています」

【自分らしい協働の形】

結婚・出産後も、建築士として活躍し続けている赤堀さん。今回は、設計・監理を任される責任者として、事務所内だけでなく、男性の職場という印象が今なお強い建設現場での業務が増えました。

「現場での私の役割は、建設が設計図どおり進められているか、細部まで確認することです。定例の打ち合わせや現場立ち会いをはじめ、関係者と密に連絡を取り合い、円滑な施工を目指しています。最近では、建築に携わる女性が増え、専用の仮設トイレ設置など、さまざまな配慮が図られています。しかし、現場ではまだ少ない存在。だからこそ、やりがいと責任も感じます。今後も、住む人や使う人の動線や使い勝手、そして感情を酌んだ、女性ならではの視点で仕事を続けていきたいと思っています。それが、今後この職業を目指す女性の一助になれば、嬉しいです」



市営大草住宅第4期の設計・監理を担当

Shimadian File #24

